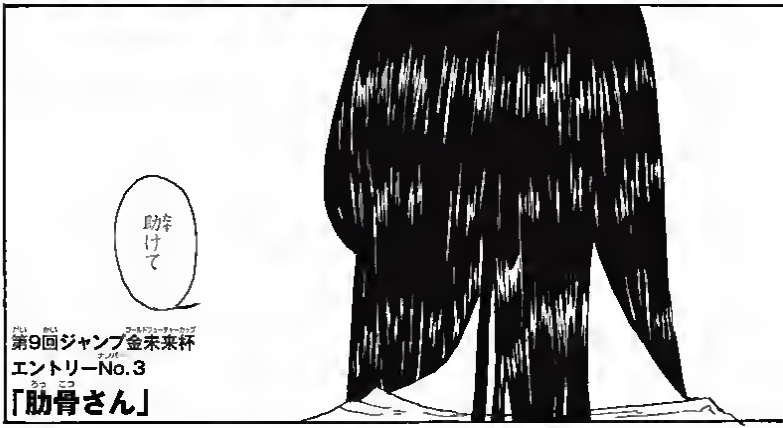
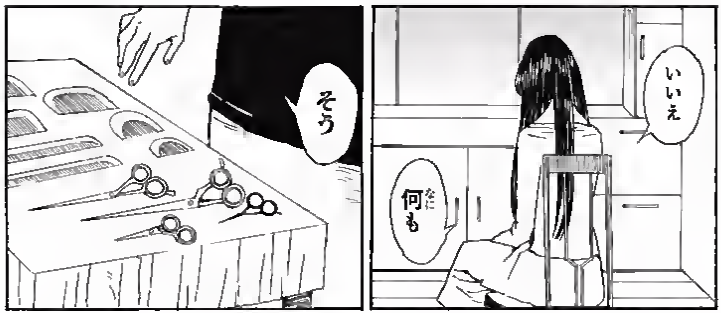
第9回 ジャンプ 金未来杯 エントリーNo.3
僕が、君を救う。でなければ、僕が――。
肋骨さん
今日もその"妙な男"は二人を断つ、不可思議系アクション読切！ カラー17P
吾峠呼世晴



第9回ジャンプ金未来杯
エントリーNo.3
「肋骨さん」



☆囚われた少女と――。

この世で最も美しいものは何だと思う？
わかりません
ホントに？
はい
正解は
人間の髪
綺麗な髪を梳かしている時が一番幸せと感じる
洗髪をして
トリートメントをして
優しく乾かして
また髪を梳かす
一本一本枝毛を切って
また髪を梳かす
ああ幸せ

邪氣に憑かれると
人はおかしくなります

邪氣とは

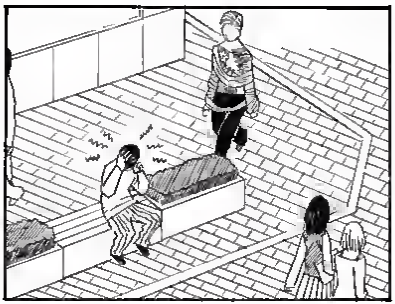
毒のような
ものです

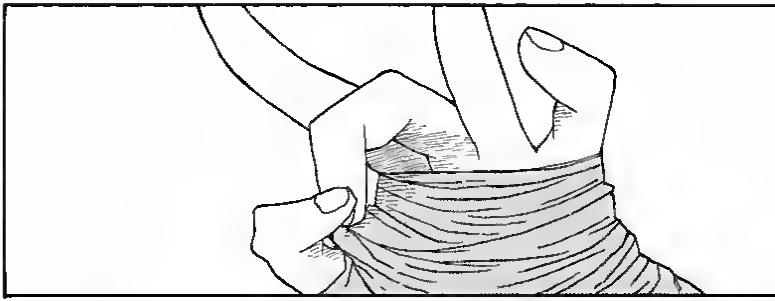
ぺたりと
人に付着する
のを好みます

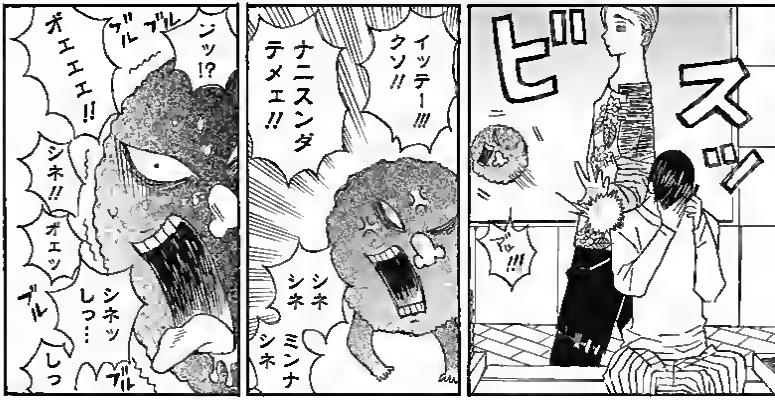
この邪氣を
浄化するのが
浄化師です

しかしそもそも
邪氣が視える
という人があまり
おりませんから

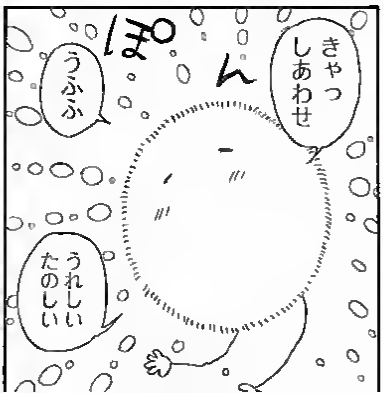
浄化師を知る人も
あまりおりません





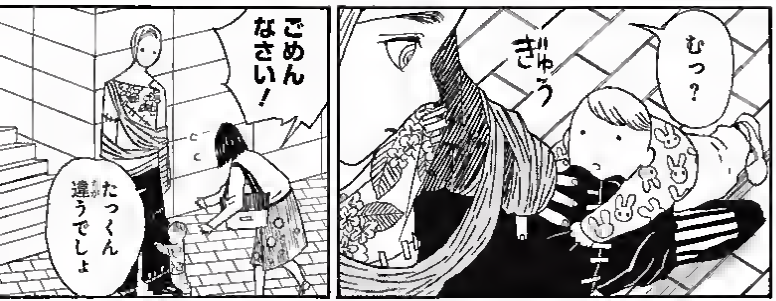

ビ
ス
ッ!!!
イッテー!!!
クソ!!
ナニスンダ
テメェ!!
シネ
シネ
ミンナ
シネ
ジッ!?
ブル
ブル
ブル
ボエエエ!!
シネ!!
ボエッ
シネッ
しっ…
ブル
しっ

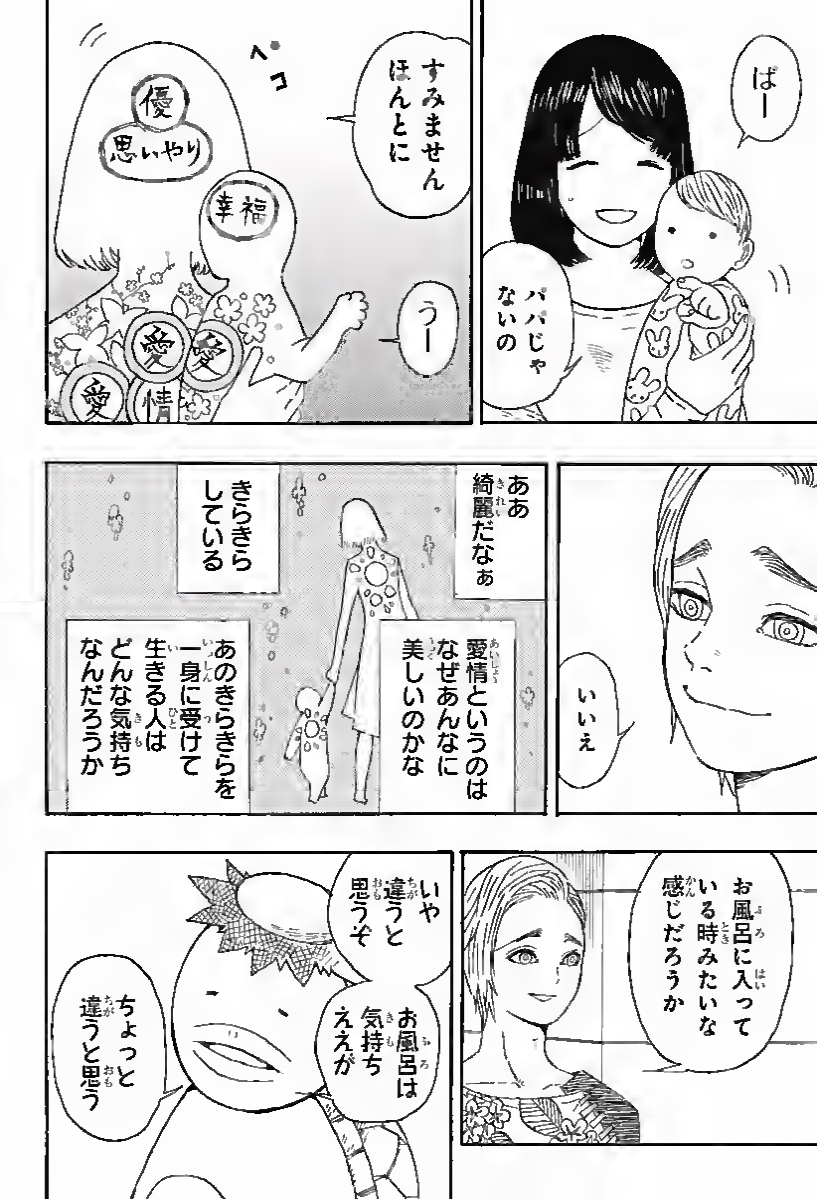
もしもし?
おーい
すき
すき


ぽ
ん
きゃっ
しあわせ
うふふ
うれしい
たのしい

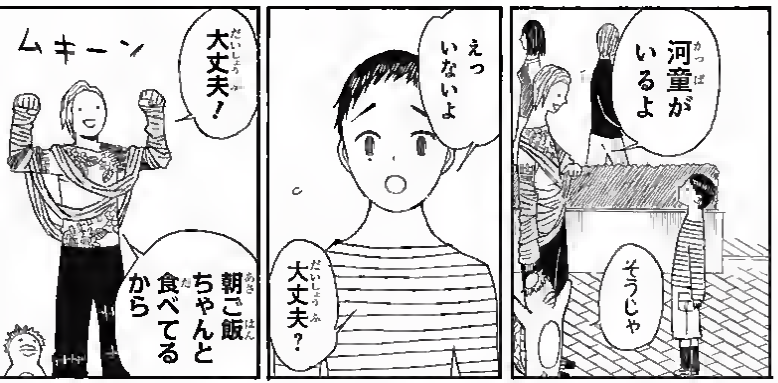
僕のこの
少し不自由な
目は
…うん
落ちついてきた
大丈夫なの？
きゅっ
大丈夫
ありがとう

みんなに見えるものが見えず
みんなに視えないものが視えたりする
ぱーぱ

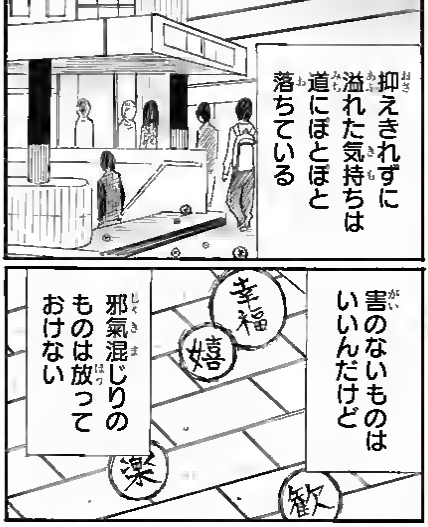

むっ？
きゅう
ごめんなさい！
たっくん違うでしょ

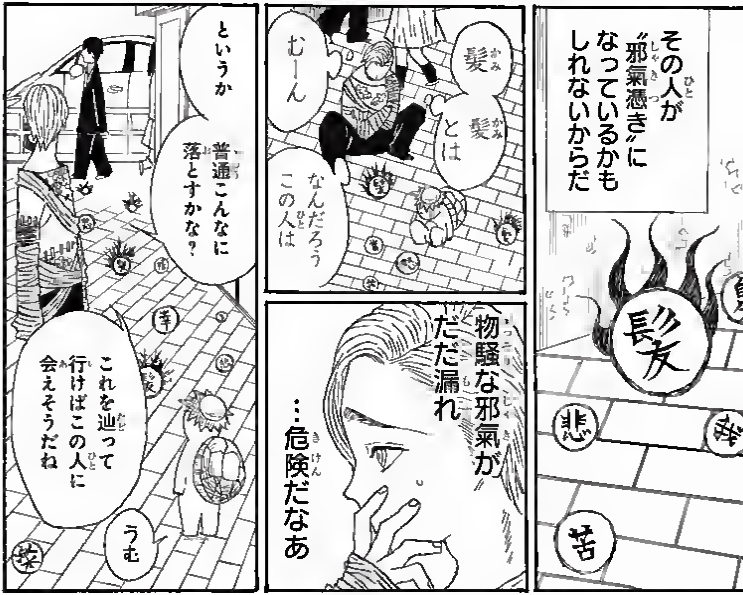

ばー
パパじゃないの
すみませんほんとに
うー
ペコ
優
思いやり
幸福
愛
愛
愛
愛
いいえ
ああ綺麗だなぁ
愛情というのはなぜあんなに美しいのかな
きらきらしている
あのきらきらを一身に受けて生きる人はどんな気持ちなんだろうか
お風呂に入っている時みたいな感じだろうか
いや違うと思うぞ
お風呂は気持ちええが
ちょっと違うと思う

僕は愛情を
知らないので
よくわからない
ので
どうにも
憧れがある
うん
知っとる
ひとりで何
話してんの？

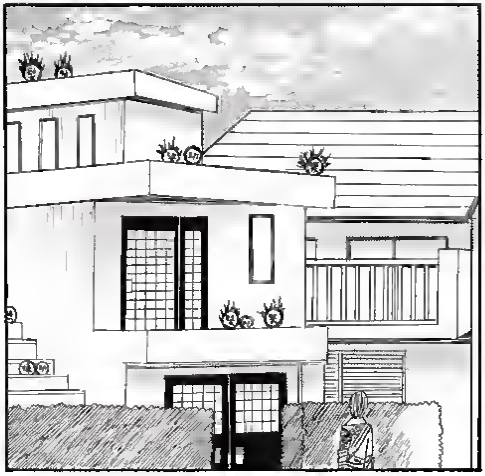

河童が
いるよ
そうじゃ
えっ
いないよ
大丈夫？
ムキーン
大丈夫！
朝ご飯
ちゃんと
食べてる
から

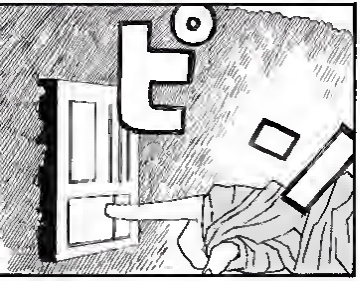
朝ご飯を
食べていて
そんなふう？
思いやり
大丈夫なら
いいけど…
誠実
あっ
じいちゃん
こっちだって！
バイバイ
プル
プル

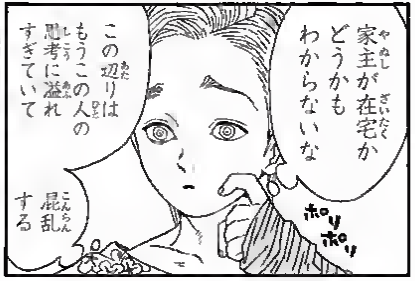

えっ
今から
違えるの!?
すぐ
行く!
抑えきれずに
溢れた気持ちは
道にぽとぽと
落ちている
害のないものは
いいんだけど
邪氣混じりの
ものは放って
おけない


その人が
〝邪氣憑き〟に
なっているかも
しれないからだ
髪
髪とは
むーん
なんだろう
この人は
というか
普通こんなに
落とすかな?
これを辿って
行けばこの人に
会えそうだね
うむ
物騒な邪氣が
だだ漏れ
…危険だなあ

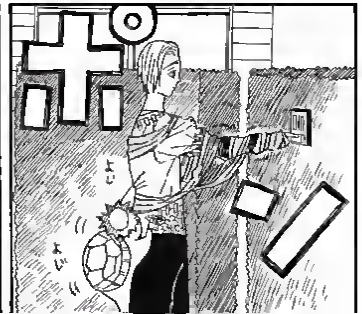
…むーん
これは
髪
怖い
助けて
髪
助け
誰か
恐怖
複数の人が
囚われている
気配



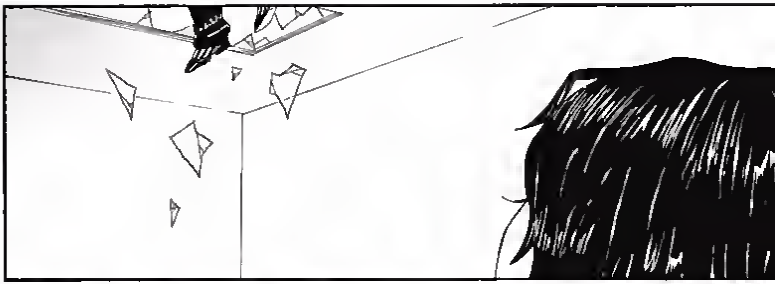

ピ
ロ
リ


家主が在宅か
どうかも
わからないな
この辺りは
もうこの人の
思考に溢れ
すぎていて
混乱する
ホーリーホー

しーん。


ポ
ピ
よい
よい

上に行ってみようかな
ドン
天窓
中が見えるぞ



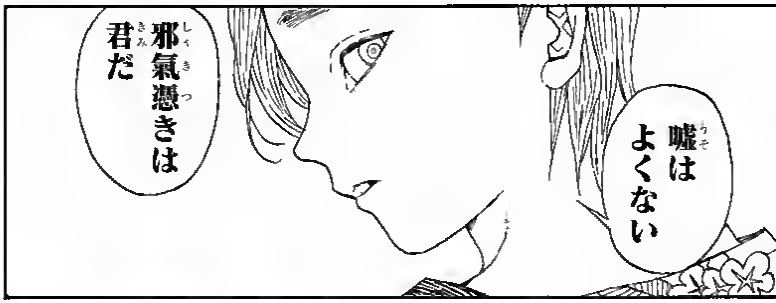
キャアッ

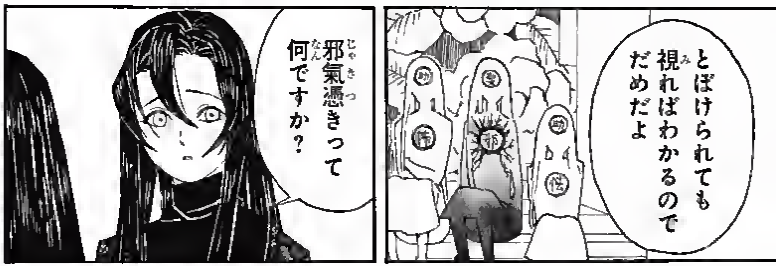
ドコン

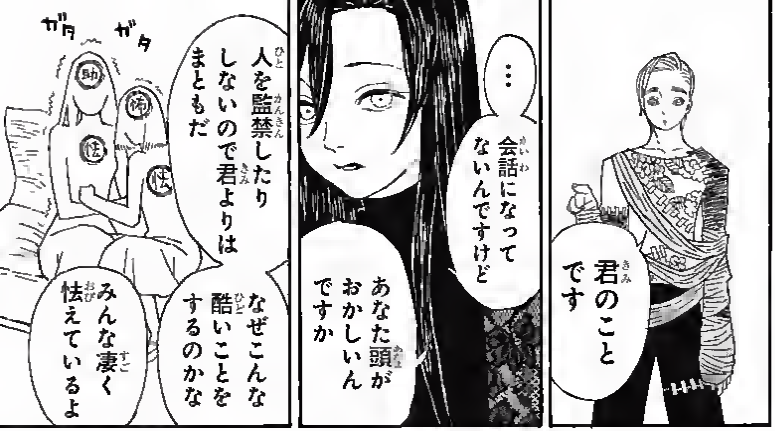
失礼
怪しい者ではございませんよ
浄化師のアバラという者ですよ

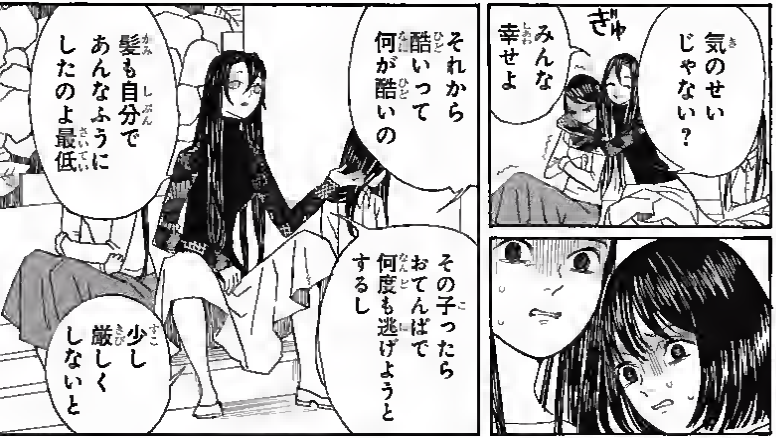
カシャン
カシャ
カシャン
別にいじめたりしないよ
やあ
麻酔もせずに抜くのは拷問かな
119番するにしてもまず邪氣憑きだ

ごめんね
もう少し
辛抱して
ほしい
できるだけ
早く倒そうと
思う
うっ
うっ
うっうっ…
ガチ
ガチ
犯人は少し前に
どこかへ出かけて
行きました


嘘は
よくない
邪氣憑きは
君だ

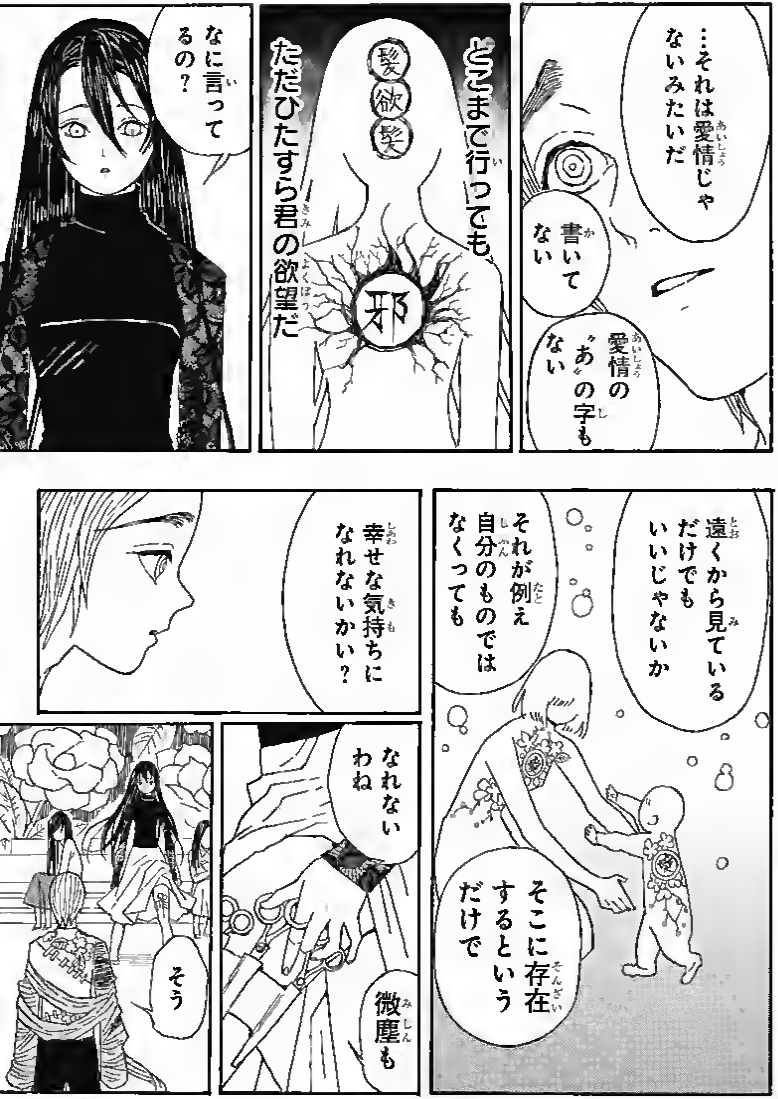

とぼけられても
視ればわかるので
だめだよ
邪氣憑きって
何ですか？

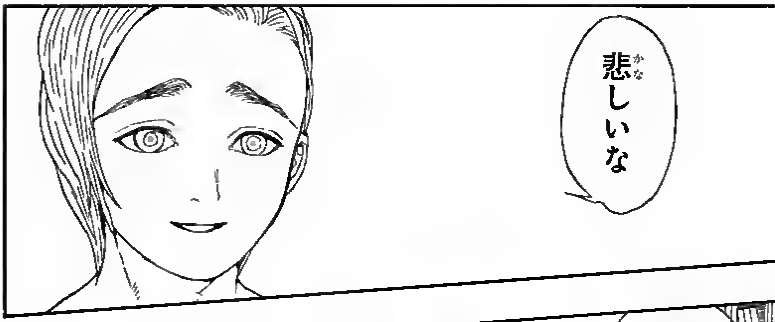

君のことです
…
会話になってないんですけど
あなた頭がおかしいんですか
人を監禁したりしないので君よりはまともだ
なぜこんな酷いことをするのかな
みんな凄く怯えているよ
ガタ
ガタ
助
怖
怯
怯

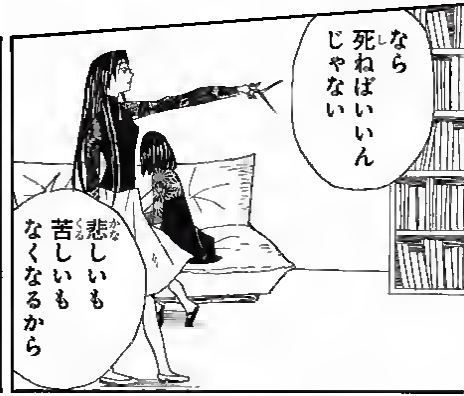

気のせいじゃない？
ざゎ
みんな幸せよ
それから酷いって何が酷いの
髪も自分であんなふうにしたのよ最低
その子ったらおてんばで何度も逃げようとするし
少し厳しくしないと

これは愛情です
私の
ガチ
髪に対する
ガチ
ガチ
人の髪はねぇ
本当に綺麗
でも残念なことに―…

人は老いて
しまうから
髪の艶は
失われ
白髪が
混じり
抜けて
いく
悲しい
嘆きの
極みよね
私が何とか
しなくては
…と
思ったの
切った時点で
切られた方の
髪は死ぬのよ
死んだ髪は
美しさが
半減するの
老いることでも
髪は醜くなる
さてどうしよう
簡単なこと
だったわ
今まで
気づかなかった
のが不思議
髪を最高の
状態にした後
人間の方を
殺せばいいのよ
そうするとね
髪は生きていて
美しいまま
時が止まるの
素晴らしい
でしょ！

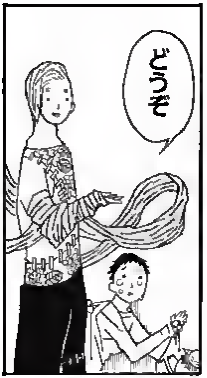

…それは愛情じゃないみたいだ
愛情の〝あ〟の字もない
書いてない
どこまで行っても
髪
欲
契
ただひたすら君の欲望だ
なに言ってるの？
遠くから見ているだけでもいいじゃないか
それが例え自分のものではなくっても
そこに存在するというだけで
幸せな気持ちになれないかい？
なれないわね
微塵も
そう


悲しいな


なら
死ねばいいん
じゃない
悲しいも
苦しいも
なくなるから

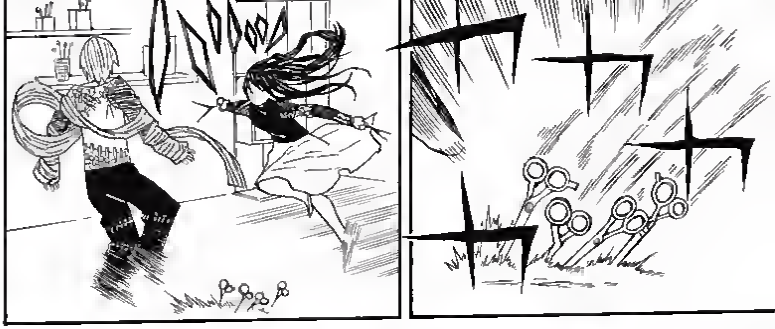
一理ある

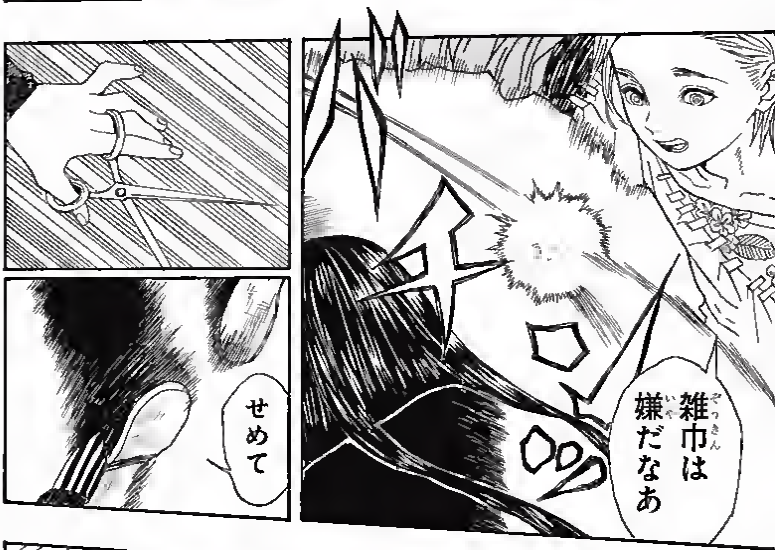
私も
気になってること
聞いていい？

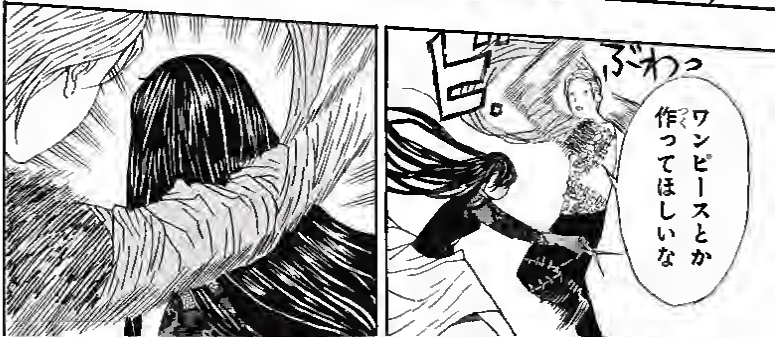

どうぞ

さっきから
ふわふわ
している
それは
何？

これは僕の神器〝羽衣〟
君ほどになるとデコピンくらいじゃ浄化できないから
これで捕まえてギッ！てやって浄化をします
ちょっと意味がわからないけど
布なのかしら？だったら
ざくっと切って雑巾にしましょう

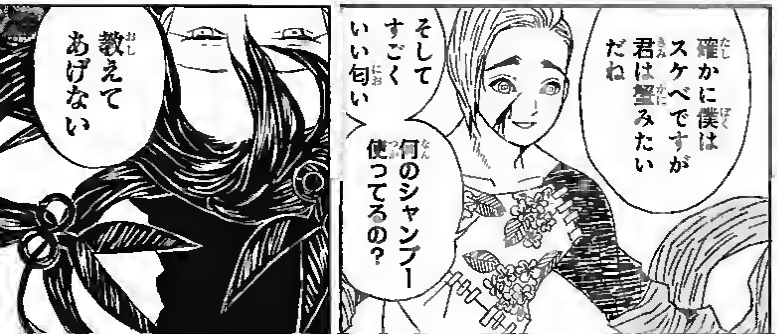


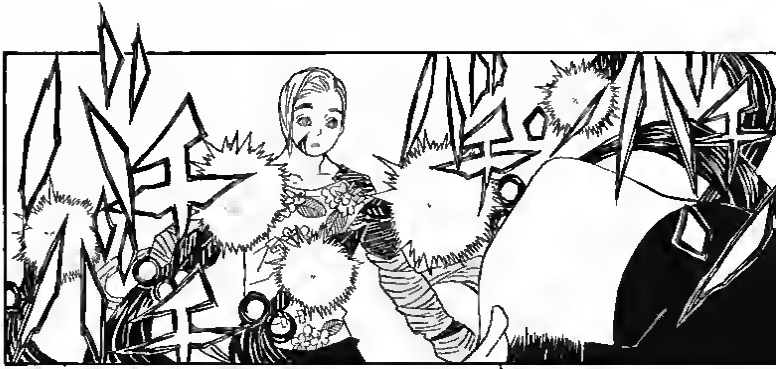

雑巾は嫌だなあ
せめて

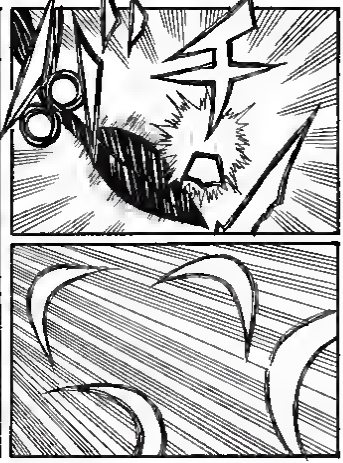

ぶわっ
ワンピースとか作ってほしいな

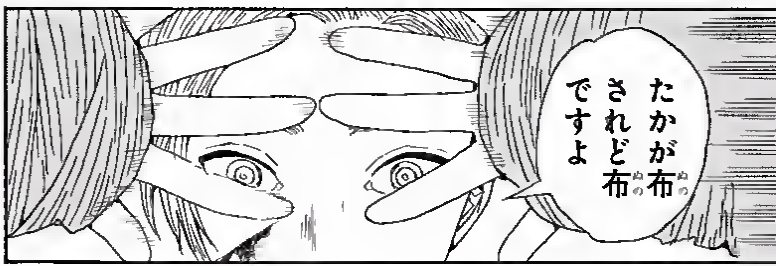
ワンピース!!
バチバチ
ドゴッ
どうあっても
私の体にその布を
巻きつけたいのね

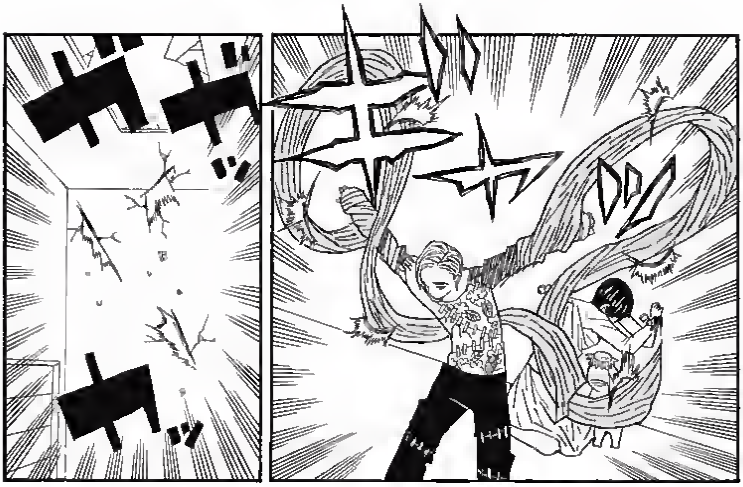
いやらしい
人


確かに僕は
スケベですが
君は蟹みたい
だね
そして
すごく
いい匂い
何のシャンプー
使ってるの?
教えて
あげない

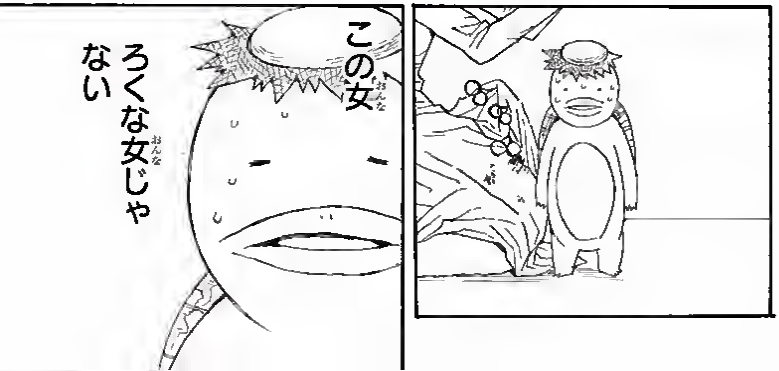





たかが布
されど布
ですよ


ヤバッ
ヤバッ
ドロ

切れない布
私の
〝飛ぶ切断〟を
はじいた
なるほど
そう

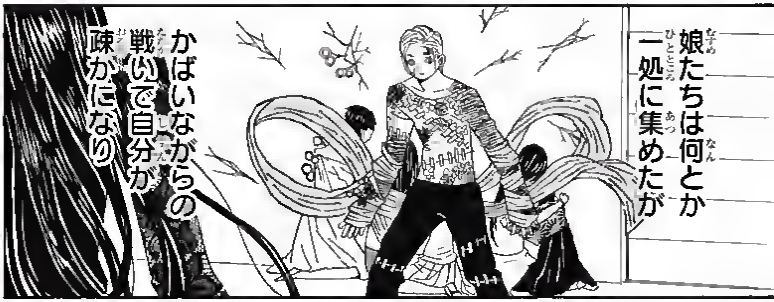

この女
ろくな女じゃ
ない

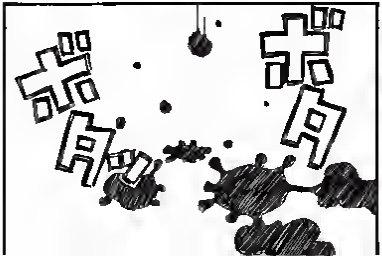
神器の力がわかるやいなや

さらってきた娘たち諸共攻撃してきおった

娘たちは何とか一処に集めたが

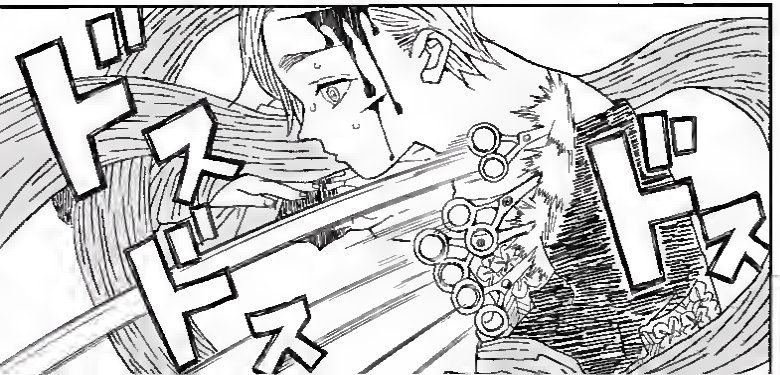
かばいながらの戦いで自分が疎かになり

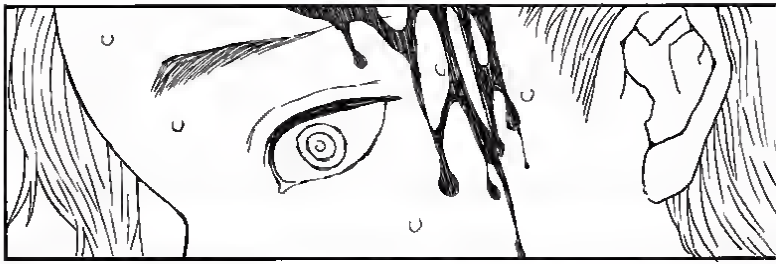




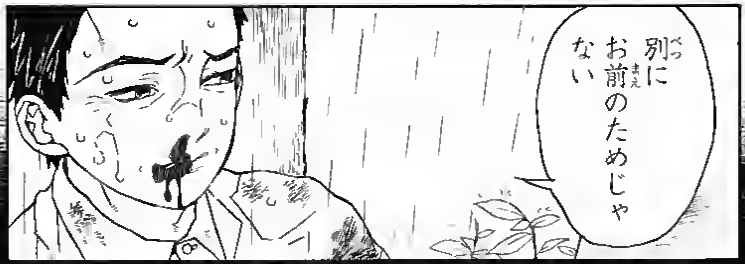
ふらふらしとる
まずいぞ
…まずい

こっちはもう ズタボロじゃ


ドズ
ドズ
ドズ



善而
僕の
命の恩人
出会った
その日に
死んでしまった



お前のために
死ぬわけじゃない
…お前のせいで
死ぬわけじゃない
アアアアア
邪氣に憑かれると
人はおかしくなる
異様な力を
使えるようになるが
消耗も激しいので
他人の命を
喰わねば
ならなくなる
誰？
わしは
ご覧の通り
河童じゃ
お前を助けて
死んだ善而の
守護精霊よ

事故に遭うても
かすり傷で済む
ような奴
運のええ奴には
大体守護が
ついとる
力なんぞは
微々たるもん
じゃが少しでも
良い方向へ
導くために
ピヨ
……
守りきれん
かったが…
……
ゴシ
ゴシ

どうして
善而は何の
所縁もない僕を
助けたんだろう

浄化師
じゃからな
金を貰える
わけじゃなし
死んだとしても
殆どの人は
知る由もないが

じゃあなんて
善而は浄化師に
なったのかな
なんにも
いいことも
ないのに…

ほんとに
のう…

邪氣による災いが自分や身の回りに降りかからなければ

どこかで誰かが苦しんでいたとしても

知らぬ顔で生きていけばいい

別に悪いことじゃあない

ただ善而にはそれができんかった

というだけの話なんじゃろ

善而はまっすぐの一本道しか進めんけぇ

川があろうが山があろうが

岩があろうが沼があろうが

まっすぐまっすぐよ

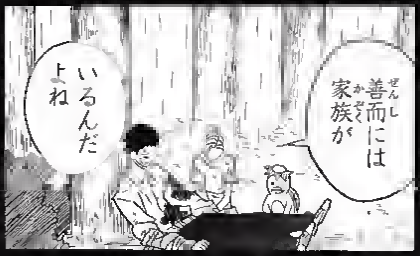
よけるさけるの選択肢がない

見て見ぬふりの選択肢がない

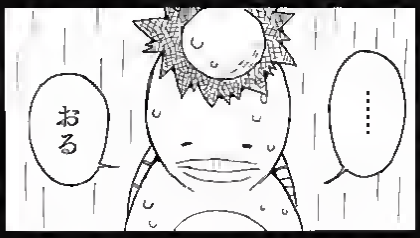
善而はずっとそんなふうで

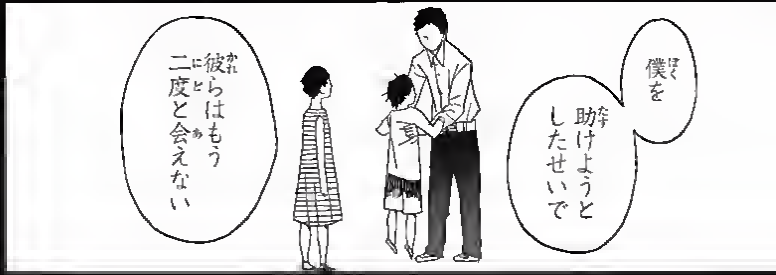
子供の頃から損ばっかりじゃ

でも
じゃからこそ
ワンは
ぎゅ
そんなふう
じゃからこそ
ワンは
善而についていて
やりたかった


善而には
家族が
いるんだ
よね

底抜けに
優しい人間は
生きるのも
大変じゃろうよ


……
おる


僕を
助けようと
したせいで
彼らはもう
二度と会えない

人の愛情の繋がりを
壊したり千切ったり
してはいけないのに

僕自身がその
原因になっている

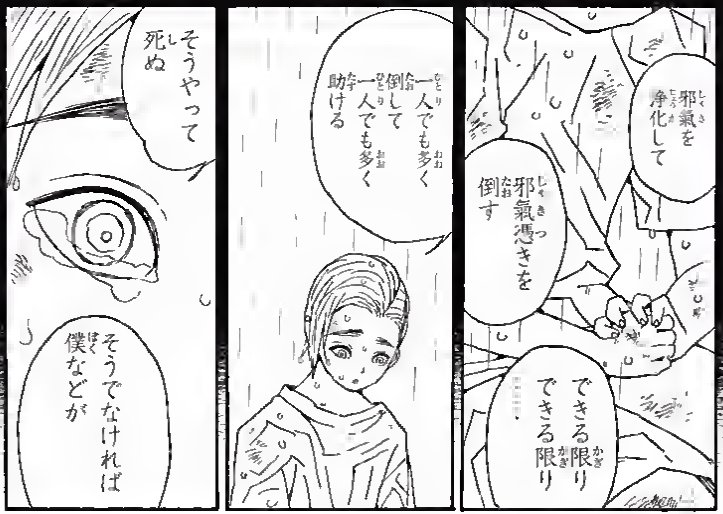
親も兄弟も
いない僕が一人で
死んでいたなら

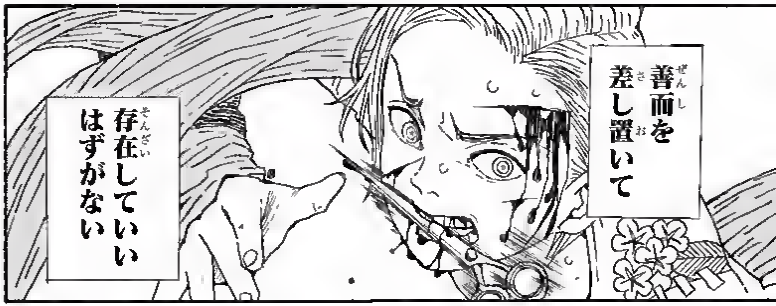
それでお終いで
良かったんじゃ
ないのかな？

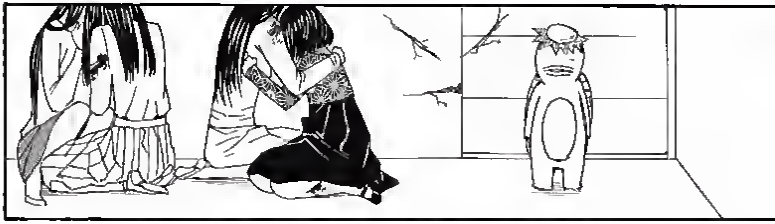
僕は

坊主

浄化師に
なるよ

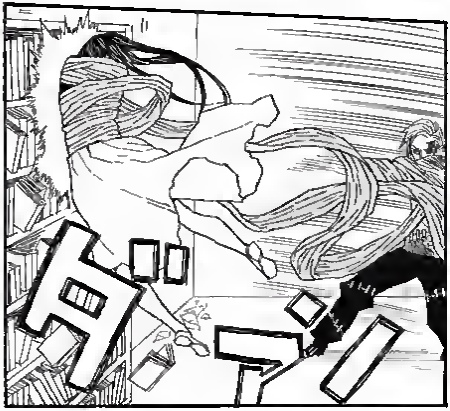

邪氣を
浄化して
邪氣憑きを
倒す
できる限り
できる限り
一人でも多く
倒して
一人でも多く
助ける
そうやって
死ぬ
そうでなければ
僕などが

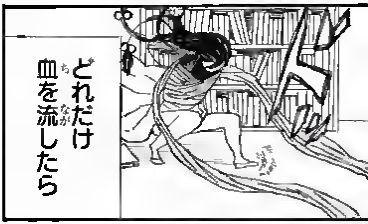

善面を
差し置いて
存在していい
はずがない

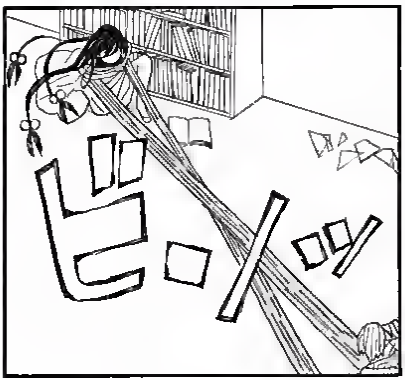


なんで
くそぉおおおお!!!
なんでこいつは膝をつかないの?
私の収集物をかばいながら

どれだけ
攻撃を受けたら
死ぬのよ

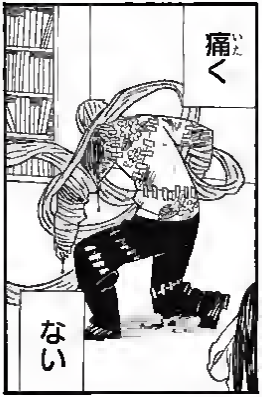

ゴゴゴ

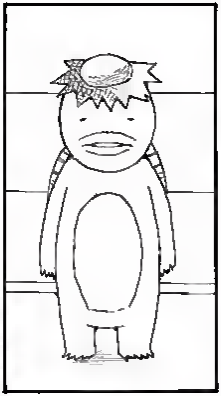

どれだけ
血を流したら


ゴゴゴ

ゴゴ

死んでくれるわけ


痛くない



痛く
ない

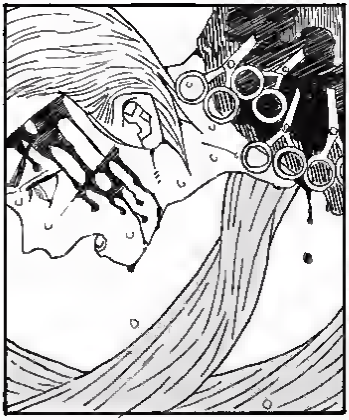
痛くない
負けない

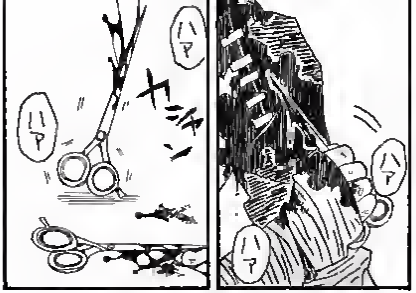
絶対負けない

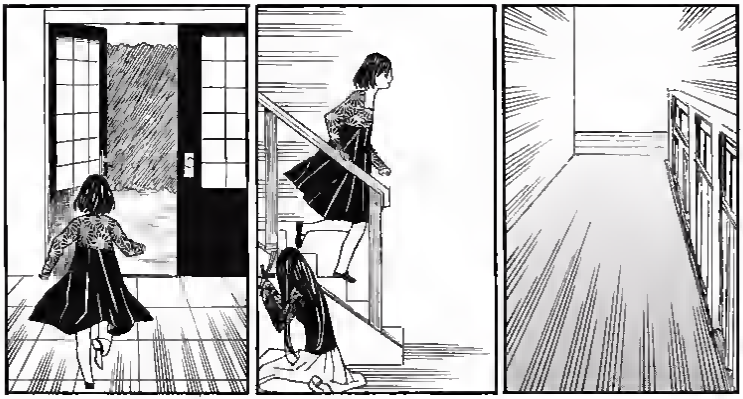
ゴゴゴ
ふふ…
ゴゴゴ
ふふふっ

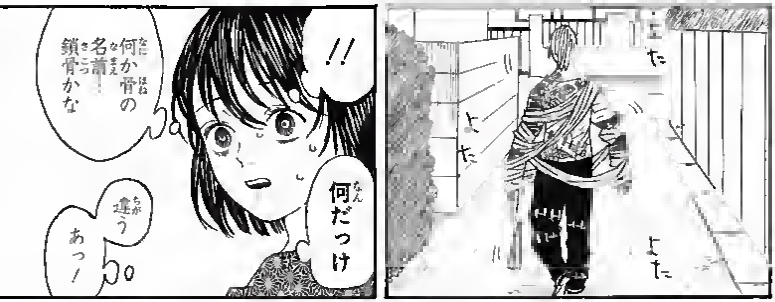
そうでなければ
僕などは!!!
あああああ!!

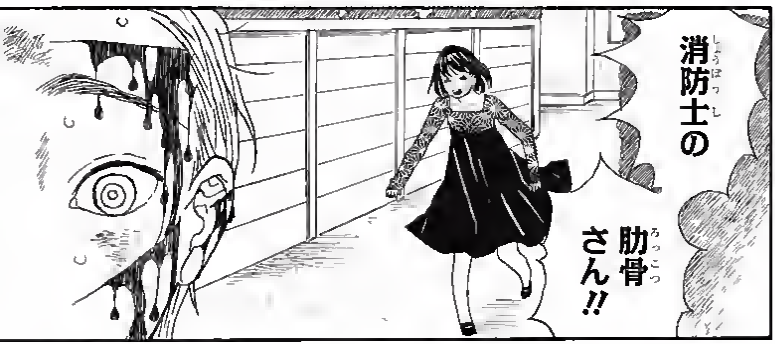
こうして
生きている
意味すら
ない!!!




ハァ
ハァ
ハァ




!!
何だっけ
何か骨の名前…鎖骨かな
違う
あっ！

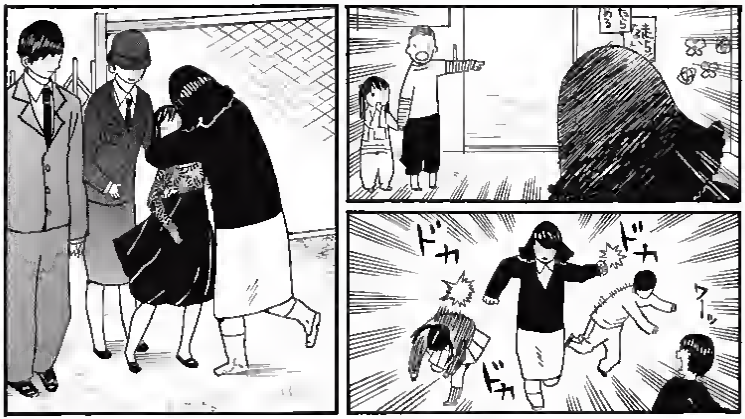

消防士の
肋骨さん!!

おもっくそ間違えとる
あの
ありがとう……
怪我は…
問題ないです
僕が死んでも悲しむ人はいないので
気にしなくて大丈夫
大丈夫だよ
…それはあまりよくない考え方です
えっ
私も家族がいなくて愛児院ていう施設に入ってるんですよ
だから自分のことをあなたと同じように思ってて
マミコさんて怖い人がいるんですけど
態度が悪いと注意されました

〝誰かに大事にしてもらおうなんて思うんじゃないわよ〟
〝そうしてもらえる人は運がいいの〟
〝あんたはそんな運持ってないの〟
〝ひねくれてるあんたを〟
〝可愛げのないあんたを〟
〝今は〟
〝誰も大事になんかしてくれないのよ〟
〝だからせめて自分くらいは〟
〝誰にも望まれてないならせめて自分くらいは〟

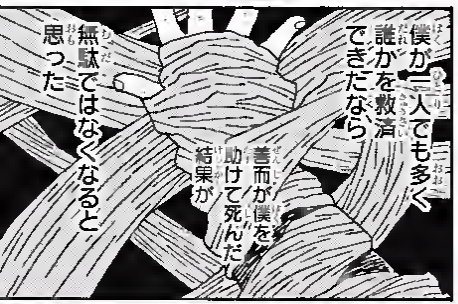
〝自分のこと大事にしてやりなさいよね〟
って
あっ
ごめんなさい
なんか
晨に
ペコ
あっ
はい
ペコ

こどもの家
愛児院
マミコさん
みおちゃん
帰ってきた!!


ドカ
ドカ
ドカ

あ
あの子
泣いとるぞ
うん
わぁぁん
無事に帰れて
よかったね
うむ
……

僕が一番怖かったのは



でも
善而は
そんなこと
きっと
気にしない

ぶっきらぼうな
人だったけど

自分が死にそう
なのに
僕への思いやりや
優しさが

どうしようも
なく滲み
出ていて

僕の価値だとか
損得だとか
そんなことは

まるで頭に
ないのだ

こんな人
絶対に死んじゃ
だめじゃないか

でも

死ぬ

申し訳なくて
たまらなかった

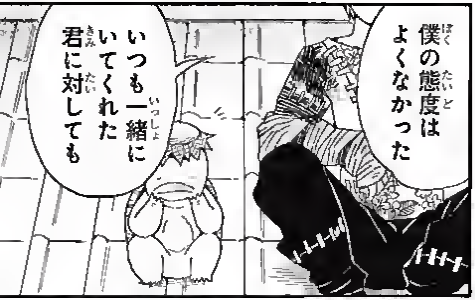
だから僕は
善而が大事に
守ってくれた
自分の命を

あまり大事に
できず

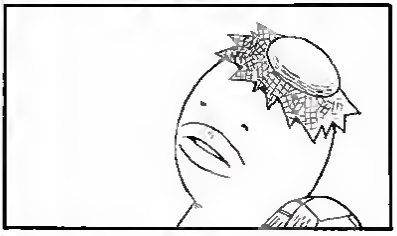
それは
とてもひどい

ひどい

大変な失礼
たったんじゃ
ないだろうかと
今さら
気づくとは。


遅い…
僕の態度は
よくなかった
いつも一緒に
いてくれた
君に対しても

僕の一生懸命は
なんだか方向性を
間違えていた
からなあ



ごめんね
ありがとう
☆愛は己の中に、
笑顔と
ともに——。